

世界遺産

見銀山大森の町

# 石州瓦

石州瓦の赤色は、この  
瓦屋根の色をいそしみます。  
この色は石州瓦のルーツ  
を待きまじ「瓦の色であり  
「はんこう」と呼ばれる  
大壁と同じ色合いです。



石州瓦工業組合

大森の町の  
二百年、三百年

れる家を  
。それが  
想いです。

から四百年前、江戸  
に築城された浜田城  
根に真かれたことが

の特徴は、二二〇〇  
で焼成されることで  
寒さに強く、防火は  
で耐久力の高い瓦と  
まれました。

や酸性雨にも強い屋  
に評価を得ています。  
の町のように二百年、  
多く家を造り、後世に  
したい。石州瓦の窯元  
な想いを共有しながら  
続いています。



J型



F型



J型



S型

## 名品は永遠 石州瓦工業組合

〒695-0016 島根県江津市嘉久志町1-405  
TEL:0855-52-5605 FAX:0855-52-0766  
URL <http://www.sekisyu-kawarai.jp/>

### ● 組合メーカー ●

- |               |                            |                                   |
|---------------|----------------------------|-----------------------------------|
| 亀谷窯業(有)       | 〒697-0023 浜田市長沢町736        | TEL:0855-22-1807 FAX:0855-23-0622 |
| (株)石州川上窯業     | 〒695-0103 浜田市大金町1742       | TEL:0855-28-2678 FAX:0855-28-2770 |
| (株)丸惣佐々木窯業所   | 〒695-0024 江津市二宮町神主 1820-5  | TEL:0855-53-0811 FAX:0855-53-3623 |
| (株)木村窯業所      | 〒695-0021 江津市都野津町1501      | TEL:0855-53-0618 FAX:0855-53-0699 |
| (有)有間窯業所      | 〒695-0021 江津市都野津町1659-1    | TEL:0855-53-0086                  |
| (株)森崎窯業       | 〒699-2507 大田市温泉津町井田1945-2  | TEL:0855-66-0111 FAX:0855-66-0825 |
| 石中央セラムックス協同組合 | 〒699-2514 大田市温泉津町福光11458-3 | TEL:0855-65-2868 FAX:0855-65-3253 |
| (株)シバオ        | 〒695-0303 大田市水上町白林658-1    | TEL:0854-89-0201 FAX:0854-89-0276 |
| (株)セラミカ       | 〒695-0305 大田市大森町11688-2    | TEL:0854-89-0011 FAX:0854-89-0777 |



# 石見銀山と赤瓦物語

ここ石見銀山大森の町を歩かれて、この町は赤瓦の町そのものだと感じられたことと思います。そうなんです。この大森の町は、石州の赤瓦で造られた集落。今から200年前の西暦1800年、この町は未曾有の大火に襲われ、殆どの家屋が焼失しました。集落の再建が始まります。当時の住民たちは、火災に強い都市造りを目指します。その切り札として使われたのが石州赤瓦と蔵造りの建築工法でした。以来200年。石見銀山大森の町は石州赤瓦の集落として、近世の商工業都市空間を良質に残す町並みとして、昭和62年全国伝統的建造物群保存地区に指定され、先の平成19年には世界遺産石見銀山の集落として多くの皆様を訪れるようになりました。

石見地方は、昔から優れた宮大工や左官などの職人を輩出するお国柄として知られ、多くの職人たちがその腕を請われて全国で活躍してきました。石見左官の饅絵などは、国会議事堂や迎賓館の壁や天井を今でも飾っています。石州瓦も、元々は大型の水甕(はんどうと言います)に代表される石見焼きの職人達の手により、江戸時代の中ごろ誕生しました。この「はんどう」という水甕、凍てに強く割れない甕として江戸から明治大正昭和にかけて大ヒットしたメジャー商品。赤褐色の焼き物で石州瓦と同じ粘土と釉薬を使い、巨大な登り窯



石見左官の饅絵

で石州瓦とともに焼かれています。

石州瓦は、北前船によって、北は北海道から南は九州に至る日本海沿線に運ばれ、各地に丈夫で長持ちする赤の景観を創っていききました。

こうした都市遺産たちをこれからさらに200年、300年の未来に残すために、石州瓦はこれからは屋根の上にあって、建築群を守り続けていきます。石州瓦にはそれだけの力があると私たちは信じています。

## 銀山を支えた港町、温泉街 温泉津

石見銀山から車で約20分。日本海に接する小さな湊町の谷あい、まるで人目を惹ぶようにひっそりと温泉津温泉があります。幅6メートル、歩くには程よいサイズの径の両側に連なる温泉街は、江戸時代末期から明治大正にかけて造られた町並み。木造の小さな和風旅館が10数軒建ち並ぶ昔の温泉街です。



温泉津町の町並み

昭和に入るとこの町は、石見銀山の積み出しや生活物資の集積港として発展し、廻船問屋や酒屋、旅館などの商家が軒を競っていました。屋根はもちろろん石州赤瓦。塩と寒さに強い石州瓦が守ってきた町並みは、平成16年に重要伝統的建造物群地区に指定されました。

温泉津の温泉街

## 石見焼きと石州瓦の故郷 大森・温泉津・江津・浜田・益田

大森の町から車で5分の水上町、20分の温泉津町はそれぞれ石州瓦の産地でもあります。温泉津から車で西に向かうこと20分、江津市という石見焼きと石州瓦の産地があり、さらに西の浜田市、益田市へと産地が続いています。

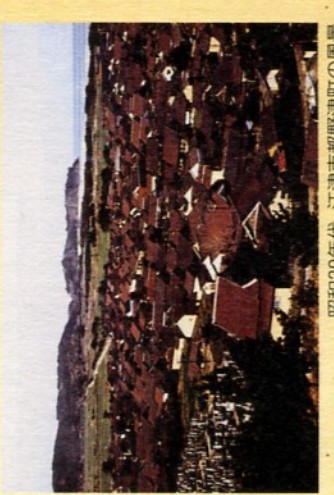
石州瓦が島根西部の大きな地場産業と言われる所です。特に江津市都野津という町は石州瓦の一大集積地。明治から大正、昭和30年代の赤瓦の町並みが色濃く残る焼き物の町です。



「はんどう」



2007年、山陰両県で唯一近代化産業遺産(経済産業省)に認定された大田市水上町の島田窯。13段の登り窯である。



昭和30年代 江津市都野津町の風景